

第16単元 □を使った式(A)

問題番号	配点	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	40 (各10)	① (上から) 20、36 ② □+20=36 ③ 16	知技場面を読み取って、図を完成させたり、未知数を□として式に表したりすることができる。	教科書60ページのように、文章にしたがって図をかいていくことを見せ、逆思考の場面で未知の数量があっても、□を用いれば順思考で立式できることを理解させる。
②	40 (各10)	① 14 ② 15 ③ 50 ④ 7	知技□にあてはまる数を求めることができる。	逆算で求めることにこだわることなく、順次□に適切な数をあてはめ、□の値を求めてもよいことを指導する。
③	20 (各10)	① □-7=18 ② 25	知技減法の場面において、問題文にそって図を理解し、□を用いた式に表して、問題を解決することができる。	①の場合と同じように、問題文にそって図を作り上げていく段階を示すことで、問題の構造や□の意味を理解させるようにする。

第16単元 □を使った式(B)

問題番号	解 答	評価規準	つまずきと指導の手だて
①	① ウ ② イ ③ ア ④ ウ	思判表未知数を含む問題場面の数量関係を読み取り、問題構造に適合する式や線分図を選択している。	つまずいている児童に対しては、まず問題文をしっかりと読み取らせ、問題の構造を分かりやすく表すために線分図を示す。その際も、問題文にそって順次図を完成していくようにする。また、問題文に表れている言葉を使って、言葉の式をつくらせる。その後で、未知数を□で表すことを知らせ、既知数を書き入れて式を完成させるようにする。 (例) <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center; gap: 10px;"> <div style="text-align: center;">はじめに遊んだ人数 ↓ 8</div> <div>+</div> <div style="text-align: center;">後から来た人数 ↓ □</div> <div>=</div> <div style="text-align: center;">全部の人数 ↓ 24</div> </div>

▶思考力・判断力・表現力の評価

評価	A	B	C
正答数	4問	3～2問	1問以下

▶主体的に学習に取り組む態度の評価

評価	A	B	C
選択内容 記述内容	3項目とも意欲的であり、感想とさらに学習したいことの2つの観点で書かれている。	3項目ともおおむね意欲的であり、感想とさらに学習したいことのどちらかの観点で書かれている。	どの項目も消極的であり、感想やさらに学習したいことが書かれていない。